

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 187 号 (2025 年 11 月号)

いずみ

仮会堂：高松市浜ノ町 60-78

(日曜日のみ)

Tel ; 070-2821-0999

発行人 宮地 宏一



先日、[四国学院大学](#)のチャペルアワーに呼んでいただきました。学生たちの心を開こうと導入で色々話題を振りましたが、無反応で滑りまくったのです。気を取り直し、聖書のお話をして帰ってきました。一緒に妻が行ってくれたのが慰めでした。帰りの車の中で落ち込む私に「最初は緊張してカミカミで聞き取りづらかったけど、導入後の聖書のことは学生たちに届いていたと思うよ」と大笑いしながら、励ましてくれたのです。これから一人でも多くの学生がイエスさまに出会い、イエスさまに助けを求められるように、お祈りしていきます！



今月も神さまからの恵みが、お一人お一人の上に豊かに注がれますように。 (2025.11.01)



負けるが勝ち

長男が小学校代表として[リレー選手](#)に選ばれ、県大会で 3 位になりました。優勝するかな～と期待していたので「残念だったね」と声をかけた私。すると長男の口から「4 番手の子が抜かれずに頑張ってくれた」と[ねぎらい](#)のことばが出たのです。悔しさはあったでしょうが、それ以上に力を合わせ、3 位になったことが誇らしかったようです。一番になることだけが全てではないと気づいたのは、彼にとって[大きな収穫](#)。それでも兄弟間では、長男としての意地があり、弟たちに絶対に負けたくないのですが、



負けたくないのに、繰り返し負けることで、いつの間にか、負けることに慣れてしまう。[負け癖](#)がつく。そうすると「どうせ負けるんだ」と、何事に対しても消極的になってしまうのです。それゆえに行動する前から諦めたり、[一歩踏み出せない](#)なんてことが何度もありました。そんな自分の歩みを振り返り、そもそも負けることは、悪いことなのだろうかと考えさせられたのです。先日の天声人語に、デビュー後、負け続けた[競走馬ハルウララ](#)について書かれていました。

私たちは結構、[負けず嫌い](#)ですね。何でも勝ちたいのですが、負けることも多い。健康診断後は健康志向になる私ですが、数ヶ月経つと[誘惑に負けて](#)、身体に悪いものを食べてしまうのです。人の成功談を聞くと、自分とは全く関係ないはずなのに、勝手に比較して、勝手に落ち込み、勝手に[負けた気になる](#)ことがあります。学生時代には思うように成績が伸びず、受験に失敗し、[敗北感](#)を味わったのです。

潔く負けることは難しい。ましてや、潔く負けつづけることは、もっと難しい。一度や二度の敗北なら立ち上がられても、度重なれば、己の実力のなさという事実に向き合わざるを得ない▼だからだろう。「負けたのは、まだ本気を出さなかったからだ」と、自分に言い聞かせて自尊心をなぐさめる。人にはそんな弱さがある。同じ勝負に挑みつづけるのがいかに難しいか▼負けても負けても走り続ける。





多くの人があの疾走に心を引かれたのは、どこか純粋なものが光っていたからに違いない。高知競馬のハルウララ。1998年にデビューしてから一度も勝てず、いつも前をゆく馬が蹴り上げた土ぼこりを浴びていた。それでもあきらめることをしなかった▼ハルウララは「勝ちたくて、がんばってるんです。やる気もなく、ずるずると負けていく…そんな馬じゃないから、いいんです」…▼格差社会へと向かう時代のとば口に現れた「負け組の星」は、113連敗という記録を残して引退。…▼ついに先頭でゴールを駆け抜けることはなかった。勝ちなき一生は「だが、価値ある一生でした…

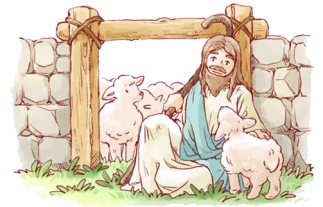
【朝日新聞 2025.9.13「天声人語」より】

負け続けたハルウララがみんなに好かれたのは常に前を見て、**あきらめず**に走っていたから。もし私が同じ立場だったら、勝負から逃げ出していたに違いありません。私たちは負けることで、どんどん**惨め**になる。だから負けられないのです。けれど負けることのない人生はあり得ません。小さな負けがあれば、大いに**ズッコケ**て惨敗することもあるのです。



この一つ一つの負けを通して、私たちは自分の欠点・弱さに**向き合う**ことになります。これは私たちには苦しみであり、マイナスに感じることもあるのです。でも欠点・弱さを認めることは、私たちにとって**強さ**となるのです。先日、ある方が「教会は弱い人の行くところだと言われて悔しかった」と話してくれました。確かに自分の弱さや欠けを知らなくては教会に行こう、イエスさまを信じようとはならないですね。そういう意味では教会は**弱い人**の行くところ。

一方で、教会に行く人、イエスさまを信じる人は、**強い人**だと思うのです。それは自分の負けを素直に認め、イエスさまに救いを求めているからです。負けを認めるのは**勇気**が必要です。プライドが傷つくからですね。けれど「自分だけでは生きていけない」と自分の負けを認めたとき、私たちは勝ちに**執着せず**、イエスさまに委ねることができるのです。



イエスさまのこの世での歩みは勝ち負けでいうと、どちらだったでしょうか。イエスさまは多くの病人を癒やし、常に多くの人がイエスさまの周りにいたのです。けれど**人生の最後**、イエスさまは捕らえられ、十字架で殺されてしまいます。そのとき、イエスさまの味方は、ほとんどいませんでした。**完全な敗北**と、当時の誰もが思ったことでしょう。しかしイエスさまは死んで終わりではありませんでした。三日目に死からよみがえられ、弟子たちの間に現れてくださったのです。

私たちの一番の恐れ・敗北は**死**です。死を前にして私たちは無力です。誰一人、死を免れることはできません。けれど自分の負けを認め、イエスさまを信じるなら、死は**敗北**ではなくなるのです。それは私たちには死に打ち勝ち、後の日に**よみがえる**という確かな約束が与えられているからです。肉体の死は、希望に変わる。そして、お一人お一人は**負けるが勝ち**の人生に招かれているのです。

わたしの恵みはあなたに十分である。

わたしの力は弱さのうちに

完全に現れるからである。[聖書]



- **礼拝** 毎週日曜日 10:30~12:00
- **イズミン・キッズ** 毎週日曜日 9:30~10:20
- **おやこ de えほん** 毎週水曜日 10:30~12:00



* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。